

抗議の要請文

4月5日の原子力潜水艦アナポリスの横須賀入港に強く抗議する。横須賀は原子力潜水艦の母港ではない。原子力潜水艦アナポリスはただちに横須賀港から出て行くことを要求する。

米海軍第7艦隊司令官 フィリップス・ソーヤー中將 殿
在日米海軍司令官 グレゴリー・フェントン少將 殿
米海軍横須賀基地司令官 ジェフリー・キム大佐 殿

神奈川県労働組合総連合
新日本婦人の会神奈川県本部
神奈川県商工団体連合会
神奈川県平和委員会
安保廃棄神奈川県統一促進会議
原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会
原水爆禁止神奈川県協議会

4月5日午前10時51分、ロサンゼルス級攻撃型原子力潜水艦アナポリスが横須賀基地に入港した。現在、横須賀港には原子力空母ロナルド・レーガンが滞港しており、横須賀港には原子炉が3基存在する危険な事態となっている。今年の原子力潜水艦の入港は6回目、原子力艦船の入港も6回目で通算987回となった。

現在、朝鮮半島をめぐる情勢は、南北首脳会談や米朝首脳会談の開催によって朝鮮半島の非核化、平和体制の確立に向け努力が続けられている。この流れは北東アジアの平和と安全にとって大変重要である。われわれは、この流れが前進することを期待する。

一方、日本近海や西太平洋地域において昨年は、これまで以上米軍と自衛隊の共同訓練・演習が行われた。今回の原潜アナポリスの横須賀基地入港は、アジア・太平洋地域へ海洋進出を強めている中国を念頭にした日本近海や西太平洋地域の軍事展開の横須賀入港と考えられる。軍事的行動によって平和と安全は生まれない。原潜アナポリスの入港は東アジアの平和と安全にとって害はあっても有益性はない。原潜アナポリスは直ちに横須賀港から出ていくことを要求する。

米政府の2018年「核態勢の見直し(NPR)」で核兵器を「安全保障に必要」と正当化し、潜水艦発射ミサイル、陸上配備型大陸弾道ミサイル、戦略爆撃機の近代化、小型核弾頭や核巡航ミサイルなどの開発を明らかにし進めている。さらに、トランプ政権は、今年2月、中距離核戦力(INF)全廃条約の破棄を通告し核軍拡競争の危機が強まっている。われわれはこのような核兵器廃絶に逆行する一連の態度に強く抗議する。今後、NPRの実施によって米原子力潜水艦に核兵器を搭載して横須賀基地に入港することが懸念される。日米間の核密約を直ちに破棄し、非核三原則を国是とする日本の港に核兵器搭載艦入港は行わないことを強く要求する。

首都圏は巨大地震発生の可能性が日々強まり、地震による原子力艦船の原子炉事故発生が懸念される。原子力艦船の原子炉事故による神奈川県民や首都圏住民の放射能被害は断じて許されない。米軍は地震や津波による原子力艦船の事故対策を明らかにし県民に情報公開を行うことを要求する。

横須賀港は米原子力潜水艦の母港ではない。横須賀基地を戦争の出撃拠点にし、県民を放射能被害の危険にさらす原子力艦船の母港化、入港をやめること。

原潜アナポリスは横須賀港からただちに出て行くことを強く要求する。

以上